

# 市町合併

みんなで考えよう

第20回

市町合併自治会長会議を開催しました

市では、市町合併の必要性やこれまでの取り組みの経過などについて自治会長に説明し、意見交換を行うため、3月15、16日の2日間、市内2会場で「市町合併自治会長会議」を開催しました。両会場とも多くの自治会長の出席のもと、貴重な意見や質問をいただきました。今回は、会議での主な意見や質問と、それに対する回答について紹介します。

資源があり、こうしたものを一体的な行政の中で発信していくことで、地域の活性化を図っていくこともできます。

なものとして発展していくまちを築いていくことが合併の最終的なねらいであり、そのための新設合併です。合併することにより、こうしたまちづくりに向けて新しい意欲が盛りあがっていくものと考えています。

**Q** 彦根市には多額の市債があり、合併することでさらに多くの公債を抱えるのでは。

**A** 各市町の起債の残高は年々増加していますが、現状では一般的に言われている危険ゾーンまでには至ってはいません。また国や県には、合併特例債などの合併支援策があり、合併は財政の硬直化を防ぐ一つの方策です。今後、「新市建設計画」の策定にあたって、現在の財政状況も見極めながら、将来展望にたって総合的なまちづくりの観点から具体的に協議していきたいと考えています。



多くの自治会長から熱心に質問がされました

**Q** 対等という合併の意味をもっと少し市民に分かりやすく説明して欲しい。

**A** 生活圏や経済圏、歴史・文化などを共有している市や町が、新たに一体的

**Q** 1市3町が合併することによって、どれだけのメリットがあるのか。

**A** 幅広いメリットが考えられるので、一概には言えませんが、例えば、組織の効率化を図ることで、管理部門の集約ができ、このことで教育、福祉、都市基盤など市民の身近な生活にかかわるような分野で、充実した行政サービスを展開することができそうです。職員の人数的にも、段階的に削減することが可能になると考えています。また、1市3町には貴重な魅力あふれる地域



3月15日、彦根商工会議所での市町合併自治会長会議

**Q** 合併特例債も借金であり、赤字のところと合併しても財政状況はよくなるのでしょうか。

**A** 今後、合併するとしたら、こういうまちにするんだ、あるいはこういうことをするんだということを具体的に整理し、どれだけの費用が必要になるのか推計していきます。しかし、合併特例債の制度があるからするのではない

**Q** 合併するからには、夢と希望と活力をもって合併すべき。中心部から離れている地域は、放っておかれていくのでは。

**A** 地域の特徴を生かし、いきいきとした暮らしができる地域をつくること、発展の大きな要素です。合併したから端になってしまつたというのではなく、それぞれの地域資源や個性を生かしていくことが全体の発展につながる

と考えています。また、本市でもホームページを活用し、さまざまな情報を提供しています。このよつなことを駆使しながら、公平公正な行政をさらに進めていきたいと考えています。

**Q** 現在、1市3町で合併協議を進めているが、長浜や木之本などほかの市町とも合併する意向は？

**A** 現在でも、広域行政の一環として、そのような範囲で環境、歴史、文化などさまざまな分野において取り組みを進めています。しかし、広域行政と市町村合併とは多少意味が異なります。合併となると、やはり生活圏ということを中心に考え、生活をよくするために近隣のコミュニティの中で取り組ん

でいくものであり、これが合併を考える上での基本であると考えています。

**Q** 合併の議論の内容や現状を市民も理解する必要がある。もう少しきめ細かく理解を求めていく必要はないか。

**A** これまでから、「広報ひこね」や「合併協議会だより」、「合併協議会ホームページ」(http://www.hikone-inaka-municip)を通じて情報提供を行っています。また、学区別の座談会などにおいても、意見交換を図ってきました。今後は、もっと分かりやすい情報提供に努めるとともに、住民説明会などを引き続き開催して、市民とともに合併について考えていきます。

## 第8回合併協議会が開催

新市の名称アンケートが提案されました

彦根市・豊郷町・甲良町・多賀町合併協議会では、3月26日に第8回協議会を開催し、合併した場合に、新市にふさわしい名称を住民の意向をもとに決定していくための「新市名称アンケート」を実施することが提案され、次回の会議で協議される予定です。

このアンケートは、候補となる名称の中から新市にふさわしい名称一つを選んで、をつけるものです。対象者は、1市3町に住む16歳以上の住民の中から無作為に抽出された2万人で、郵送で配布、回収を行います。彦根市では、1万6、400人が対象になります。なお、アンケートの調査期間は、今後協議会で検討

応募があった名称から選定された名称

犬上市	湖城市	東近江市
東ひこ市	ひこね市	びわこ市

現在の各市町の名称

彦根市	豊郷市
甲良市	多賀市

なお、このほかの第8回合併協議会の協議内容は、「合併協議会だより」第5号「(広報ひこね)5月1日号と同時に配布」に掲載されます。

## 新市将来構想案がとりまとめられました

彦根市・豊郷町・甲良町・多賀町合併協議会に設置した「新市将来構想策定委員会」では、3月13日に第4回目の会議を開催し、先の実施した「新市のまちづくりに関する住民アンケート」やこれまでの策定委員会および部会ごとの協議を経て、新市将来構想案をとりまとめました。

この構想は、1市3町が合併した場合に、住民と行政が連携・協力し、ともに目指すべきまちづくりの理念や方向性など新市の将来ビジョンを示したもので、新市建設計画の基礎となるとともに、住民の皆さんに合併について考えていただく材料の一つです。新市将来構想は、概要版を作成して、1市3町の皆さんに全戸配布される予定です。

新市将来構想案 から

新市が目指す将来都市像  
個性が響き合い 活力を生み出す  
住み続けたいまち  
- 今、湖・まち・さと・山が一つになる -

新市のまちづくりの基本方向

- (1)お互いに認め合う人権尊重のまちづくり
- (2)個性豊かな人と文化を育むまちづくり
- (3)生き生き健康福祉のまちづくり
- (4)伝統と自然が響き合う産業活力のまちづくり
- (5)住んで良かったまちづくり

合併についての問い合わせ先 市町合併推進室 ☎22-1411 (内線414) FAX22-1398



豊郷町役場別館会議室で開かれた第8回の合併協議会



# 下之郷城主・多賀豊後守高忠

合併について協議をすすめている彦根市・豊郷町・甲良町・多賀町の1市3町は、これまでどんな歴史を刻んできたのでしょうか。

「1市3町のあゆみ、つながり」をテーマに、今日まで伝えられてきた歴史をそれぞれの市町の歴史の研究に携わっている人に語っていただきます。地域の来し方行く末に思いをさせてください。

近江の歴史を語る時、近江源氏佐々木氏を措いて話は進められません。甲良の歴史もまた然りです。

観応元年（1350）6月佐々木京極道誉が高師直に宛てた文書（多賀神社文書）によると、「私が今こうして甲良に住まいをかまえていられるのも、ひとえに多賀社の神官である多賀・河瀬一族の忠勤の賜物である。」と述べています。

近江一国の守護となつた佐々木道誉は坂田郡柏原から甲良に館を移すについて、国人領主たる多賀・河瀬両氏を懐柔したことが知れます。さらに道誉四代の孫京極持清は、己の弟高忠を多賀氏へ送り込み姻戚関係によりさらにその絆を固めたのです。

この高忠こそ世に有名な多賀豊後守高忠に他なりません。

『中世武家儀礼の研究』（二木謙一著・吉川弘文館）には高忠について次の記述があります。

「多賀高忠は近江京極氏の重臣で、室町中期寛正3年（1462）10月5日から文正元年（1466）12月末までと文明17年（1485）4月15日からその死にいたる翌18年8月17日まで心仁の大乱前後の時代に二度にわたって侍所所司代の任にあつた人物である。

歌道をよくし、小笠原持長に射芸を学び、その技に秀でまた多くの武家故実書を著している。（中略）室町期の京都の人々の間に多賀高忠の名は、あたかも江戸の名町奉行大岡越前守忠相に比せられるほど市井に知られていた。庶民を食い物にする狡猾な質屋を懲らしめたり、強欲な買主に奪われた家財を奇抜な裁きで守つてやった話など、その真偽のほどはともあれこうした逸話が京都の庶民たちに語られたところに高忠と京都の関係の深さがしのばれよう。」

このように、高忠は所司代として京都にあつて活躍した人物ですが、彼は

下之郷城主（三代目）でもある下之郷桂城神社文書には次のような記述があります。

「京極高員（高忠の父）はこの社が往祖の神霊であることに思いをはせ（桂城社は佐々木神社の祭神を勧請している）朝拝怠り無かつた。近在の八目、石畑、八町、四十九院や遅れて雨降野の村人たちは産土神として敬いたいと申し出があつたのでこれを許し、六所の産土神と

したので神威はいやがうえにも上がった。高員の子豊後守高忠は姓を多賀に改め弓馬の達人であつた。彼はある年、国中の人々が干天のため困窮したとき六所の神に雨乞い神事を奉納するや忽ちに降雨があり、国守京極持清の信頼を一身に集め六所大権現の威光もより高まつた。

かくて下之郷城は代々相続し来たつたが永祿・元龜・天正の政変に江源佐々木一統は悉く没落、下之郷城は他に先んじて落城し城主をはじめ家老ら諸士多くが討死した。」

このように甲良は既に南北朝時代から多賀、豊郷、彦根と歴史的に深いつながりがあることが知られるのです。

（甲良町文化財専門委員 川並稔男）



多賀豊後守高忠像